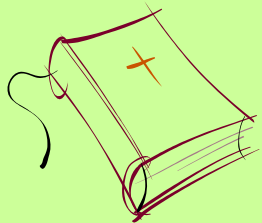


MB 伝道ニュース



開拓ビジョンを語る【19】



藤井義生牧師
伝道委員会委員長
(長瀬キリスト教会)

「感染の只中の伝道」

「実は、この男はまるで疫病のような人間で、世界中のユダヤ人の間に騒ぎを起こしている者であり、ナザレ人の一派の首謀者であります。」(使徒 24 章 5 節)

今、私たちは「コロナ後」の世界を考えなければならない。2001 年の同時多発テロの時は、9.11。2011 年の東日本大震災の時は、3.11、という数字があったが、コロナには、特定の日時はない。

ここで、使徒の働きは、福音の伝道者を、疫病にたとえている。影響が「世界中」であることと、発端が「ナザレ人の一派」と限局されている点で、疫病と福音の伝道者との類似性は高い。歴史をひも解いてみると、実は、疫病と福音は密接に関連しあっている。一つの例は、中世ヨーロッパのペストである。このペストは、ヨーロッパの人口の激減をもたらした。芸術では「死の舞踏」という絵画が描かれ、人々の心に死への恐れが生じ、救いへの渴望がもたらされた。このことは、宗教改革の遠因になったとも言われる。これは、疫病が福音の必要を喚起した例である。

もう一つの例は、コロンブスの新大陸発見である。福音宣教の「大義」のもとに、ヨーロッパ人が入植した。ヨーロッパ人から見たら、新大陸発見、福音伝道、文明化を成し遂げた、という話だ。ところが、実はこの時、疫病ももたらされていた。抗体のなかったインディアンは、深刻な人口減少を経験した。これは、福音伝道が疫病をもたらした例である。

歴史と言っても、グッと身近な話になってしまうが、日本では、つい最近まで、結核は身近であった。先輩の牧師には、結核の治療をされる中で、病床伝道を受け、信仰を持たれた方も少なくない。作家の三浦綾子さんも、脊椎カリエスの中で、三浦光世さんに出会い、病床洗礼を受けられた。以上の点から、そもそも私たちは、コロナ以前から、疫病の「只中で」伝道をしているのである。

私の奉職する長瀬教会の開拓宣教師は、カナダMBのデイヴィッド・バルザー宣教師である。バルザー先生は、5年ほど開拓の働きをしてくださった。しかし、途中で結核に罹患し、カナダへの帰国を余儀なくされた。つまり、バルザー先生は、疫病の「只中」で伝道してくださったのである。しかも開拓伝道を。私は長瀬教会の五代目の日本人牧師として、今まさに、バルザー先生のされたことを思い出さなければならない。

さあ、みなで「コロナ後」の伝道をしよう。大きな目で見れば、これは何も真新しいことではない。使徒パウロの時代から、今日まで、あらゆる時代のキリストの証人は、疫病の「只中で」伝道してきたのであるから。私たちも先人に倣って進んで行こうではないか。

2020 年度伝道委員会新役員紹介

藤井義生牧師 伝道委員長（長瀬）



武田信嗣牧師 副委員長（武庫川） 〈新任〉



中島若樹師 JMS（能勢川）



栗田 学牧師 書記（尼崎） 〈新任〉



板倉由貴夫兄 会計・広報(泉北)



コーリー宣教師 オブザーバー



退任に感謝をこめて

☆田畑雅紀師（いずみ）退任＝10年間の長きにわたってのご奉仕に感謝いたします。委員長の責務に多くのお時間を奉げて下さったことと、伝道に対しての取り組み方を学ばせて頂きました。伝道委員会一同心から感謝を致します。

☆中田明義兄（武庫川）退任＝4年間の伝道委員会の会計のご奉仕有難う御座いました。精算のときにも笑顔をもって精算をして頂き、キャラバン伝道の計画段取りに多くのお時間を奉げて下さって一同感謝いたします。

.....
【編集後記】 皆様のご意見ご感想をお待ちしております。
.....

発行：日本メノナイトプレザレン教団 伝道委員会
〒563-0032 大阪府池田市石橋2丁目17-10-B TEL:072-762-5731
発行者：藤井義生師(伝道委員長) 編集者：板倉由貴夫(広報担当)